

先催県「基本構想」内容比較

参考資料 1

開催年 開催県	H31 愛知県	H30 福島県	H29 富山県	H28 長野県	H27 石川県	H26 新潟県
策定年月日等	H28年2月12日(4年度前の冬) 決定:準備委員会	H27年1月30日(4年度前の冬) 決定:準備委員会	H26年5月30日(3年度前の春) 決定:実行委員会	H26年2月(3年度前の年度末) 決定:実行委員会	H25年3月26日(3年度前の年度末) 決定:基本構想検討委員会	H23年11月29日(3年度前の秋) 決定:実行委員会
第1章 はじめに						
1 基本構想の趣旨	開催理念・開催内容等の基本的事項を定めるために策定	←	←	←	←	←
2 全国植樹祭とは	概要を記載	←	←	←	←	←
3 該当県における全国植樹祭の開催状況	概要を記載	←	←	←	←	←
第2章 開催方針						
1 開催理念	「木材の利用」を山村(やま)と都市(まち)をつなぐ架け橋とし、健全で活力ある「森林(もり)づくり」と「都市(まち)づくり」を進める	●県民参加の森林づくり活動を推進する ●本県の復興・発展を加速する原動力とする ●海岸防災林の復旧・再生や放射性物質の影響を受けた森林の再生を目指す ●県内外の多くの方が参加できるようにする ●国内外からの支援に対する感謝と復興に向かって強く歩み続ける福島の姿を広く発信	全国植樹祭の開催を契機として、県民参加の健全な森づくりの一層の推進と森林資源の循環利用の促進による林業再生を図る。また、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育てる県民の活発な実践活動やそこで育まれた歴史・文化など富山県の数多くの魅力を全国にアピールし、緑あふれる自然といきいきと人が輝くふるさとを未来へつなぐ。	①植えて・育てて・利用する「林業のサイクル」を、取り戻そう ②森林や身近な緑の恩恵を、もう一度見つめ直そう ③森林と共に生きる人々の思いを、伝えよう	国民共有の財産である森林の役割を再認識し、健全な森林を次世代に継承していくため、森林の保全整備と、それを支える森林資源の利用拡大の重要性に鑑み、「森林資源を積極的に利活用していく」ことを基本理念とする	全国植樹祭の開催を契機に、森林と人、そして中山間地域と都市のつながりが、森林と地域の復興の力となることを全国へ発信するとともに、緑豊かなふるさと・新潟を未来へ引き継ぐため、「森林から始まる循環型社会」の実現を目指していく
2 大会テーマ	開催理念を表し開催機運を高めるため、県内から公募する (H28.12頃決定予定)	震災復興に向けた県民の姿と国内外からの支援への感謝の気持ちを発信できる大会テーマをH27年度に公募予定 (→H28.6.15決定)	開催機運を高めるため一般公募し選定する (→H27.2.9決定)	開催理念を表す大会テーマを県内から公募する (→H26.6.19決定)	開催機運の盛り上げとPRのため、公募により選定する (→H25.11.15決定)	【大会テーマ】 「未来へつなぐ森の力～復興から創造へ～」
3 シンボルマーク	開催理念を表し開催機運を高めるため、全国から公募する	開催機運を高めるため、公募により選定する (→H28.6.15決定)	開催機運を高めるため一般公募し選定する (→H27.2.27決定)	開催理念を表し開催機運を高めるため、全国から公募する (→H26.11.21決定)	開催機運を高めるため、公募により選定する (→H25.8月中旬決定)	大会機運を高めるため、既存キャラクターも活用し作成する (→H25.3.25決定)
4 大会ポスター原画	県内の小中高高校生から募集し選定する					
5 開催会場(候補地)	式典会場:愛知県森林公園(県) 植樹会場:愛知県森林公園 荒天会場:記載なし	具体的な箇所は、基本計画で設定 式典会場:南相馬市の海岸防災林(植樹会場) 荒天会場:記載なし サテライト会場:設置予定 PR会場:設置予定	式典会場:桃山運動公園(魚津市) 植樹会場:桃山運動公園の周辺 荒天会場:ありそドーム(魚津市)	※県全域をステージとした県民参加による広域開催型の大会とする 式典会場:長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」(長野市) 【屋内】 植樹会場:式典会場の近隣及び県内に複数箇所設置 荒天会場:エムウェーブ(長野市)	式典会場:木場潟公園(県) 植樹会場:式典会場内及び近隣地より選定 荒天会場:こまつドーム(小松市)	式典会場:長岡産業交流会館「ハイク長岡」(長岡市) 【屋内】 植樹会場:川口さずな館(長岡市) 参加者記念植樹:中越地震被災地周辺 荒天会場:ハイク長岡(長岡市)
6 開催規模	10000人程度(荒天時は縮小)	式典参加者11000人程度 (関連行事を含め25000人程度)	6000人程度(荒天時4000人)	15000人程度	10000人程度(荒天時は縮小)	3500人程度(荒天時は縮小)
7 開催時期	H31春季	H30春季	H29春季	H28春季	H27春季	H26年5月下旬から6月上旬
8 企業協賛等	開催内容を充実させ、大会機運を高めるため企業協賛を募る予定	←		開催内容を充実させ、大会機運を高めるため企業協賛を募る予定	←	←
第3章 式典行事						
1 基本的な考え方	●参加者が開催理念を共有し、心に残る内容の植樹祭とする ●簡素化を図りつつ厳粛で品格のある内容とする ●できるだけ多くの方々や大会に賛同いただいた企業、団体等が参加できるよう配慮	●復興に向けて歩み続ける姿、感謝の気持ちをアピールし、参加者が開催理念を共有し、心に残る内容にする ●多くの方が参加できるよう配慮	●参加者が開催理念を共有し、「また富山にきたい」と感じてもらう構成にする ●式典は簡素化を図りつつ、厳粛で品格のある内容にする ●多くの国民やボランティア団体等が参加できるよう配慮	●開催理念を式典参加者が共有するとともに、美しい信州の文化を全国にアピール ●屋内施設の特徴を活かし開催理念を象徴できるような演出を行うが、簡素化を図りつつ厳粛で品格のある内容 ●多くの県民や大会に賛同いただいた企業等が参加できるよう配慮 ●式典会場と県民植樹会場を映像で結ぶなど、より多くの県民が参加できる行事とする	●参加者が開催理念を共有し、「また石川にきたい」と感じてもらう構成にする ●式典は簡素化を図りつつ厳粛で品格のある内容とする ●多くの国民やボランティア団体等が参加できるよう配慮	●県民との協働による森林再生などを強くアピールし、参加者の心に残る内容となるよう、開催意義や開催理念を全国へ発信 ●式典は、既存施設の活用等により簡素化を図り、かつ厳粛で品格のある内容とする ●できるだけ多くの県民が参加できるよう配慮
2 式典演出	プロローグ、式典、エピローグの3部構成 詳細は基本計画で検討	←	←	←	←	←
3 式典運営	●参加者の安全性と快適性に十分配慮するとともに、ボランティアやみどりの少年団等に協力を得ながら、おもてなしの心を持って行う ●司会者、大会アシスタント、式典音楽隊等の出演者は、県内関係団体の積極的な協力と参加を得て編成する	←	←	←	←	←

先催県「基本構想」内容比較

参考資料 1

開催年 開催県	H31 愛知県	H30 福島県	H29 富山県	H28 長野県	H27 石川県	H26 新潟県
第4章 植樹行事						
1 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●将来目指すべき森林の姿をイメージして実施 ●気候風土に適し、地域の特性に応じた森林づくりを目指す ●愛知県は全国有数の緑化木生産地であり、県内産苗木を植樹。苗木のホームステイ等により子供たちが育てた苗木も植樹 ●子供、高齢者、障害者、植樹指導を行うボランティアなど、できるだけ多くの県民が参加できるよう配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来の森林利用の方針と植栽樹種は基本計画で検討 ●植栽地の状況や福島県の気候風土に適した樹種を選定 ●苗木のスクールステイなど苗木づくりの段階から多くの県民に参加してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ●気候風土に適した広葉樹や優良無花粉スギ「立山 森の輝き」等を植栽し、県民参加による健全な森づくりと森林の循環利用促進による林業再生を目指す ●植樹用苗木は、県内採取した種子を育成することを基本とする。苗木のホームステイなど子供たちが自ら育てた苗木も使用 ●子供、高齢者、障がい者を含めた多くの県民やボランティア団体が参加できるイベント等の企画を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●広大な長野県全域をステージとして実施し、詳細は基本計画について策定 ●記念植樹会場と県民植樹会場を県内の複数箇所に設け、多くの県民が行事に参加できるよう計画する ●記念植樹の会場は、各会場の気候風土、立地条件、地域の特性に配慮した樹種選定を行い植栽 ●使用する苗木は、県民が「苗木のホームステイ、スクールステイ」で育てた苗木を使用し、県内の苗木生産者が生産した優良苗木を使用 ●植樹会場は、大会後も多くの県民との協働により森林を育て、適切に管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来目指すべき森林の姿をイメージし、気候風土や立地条件に適した樹種の選定 ●植樹用苗木は、県内採取した種子を育成することを基本とする。苗木のホームステイなど子供たちが自ら育てた苗木も使用 ●子供、高齢者、障がい者などを含む、できるだけ多くの県民やボランティア団体が参加できるイベントやポストイベント等の企画を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●気候風土に適した樹種の植栽など、地域特性に応じた森づくりを目指す ●森林ボランティア、子供、高齢者、障害者等を含む、できるだけ多くの県民が参加できるようにする ●植樹用苗木は、県内採取した種子を育成することを基本とする。苗木のホームステイなど子供たちが自ら育てた苗木も使用
2 お手植え・お手播き	<ul style="list-style-type: none"> ●自然条件にあった在来樹種で、県民に親しみのある樹種を選定 ●お手植えされた記念樹は、シンボルとして大切に管理・育成する ●お手播きされた種子から養成した苗木は、県が管理・育成し、県内の公共施設等に記念樹として配布 	←	←	←	←	←
3 記念植樹	<ul style="list-style-type: none"> ●県内外の参加者には1人複数本を植栽してもらう ●詳細は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●各会場に特性にあった樹種を選定し、県内外の参加者には1人複数本を植栽してもらう ●詳細は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●県内外の参加者には1人複数本を植栽してもらう ●詳細は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●各会場に特性にあった樹種を選定し、未来の森をイメージしながら県内外の参加者には1人複数本を植栽してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ●県内外の参加者には1人複数本を植栽してもらう ●詳細は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●植栽エリアごとに、地域の特性等に沿って選定。未来の森をイメージしながら植樹 ●県内外からの参加者が、1人1本以上の植樹を実施。詳細は基本計画内で検討
第5章 会場整備等						
1 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●安全性や機能性を考慮し、参加者が安心して快適に参加できるよう配慮 ●県産の木材、花きの積極的使用 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催理念を考慮し、自然環境に負荷を与えないよう、経費節減を図ることを基本に整備 ●会場に設置する構造物等には、県産材をできる限り使用 ●安全性や機能性を考慮し、高齢者や障がい者に対しきめ細かく配慮 ●基本計画で具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境に負荷を与えないよう、極力原地形を有効に利用し、経費節減を図ることを基本とする ●周辺の景観との調和を図るとともに、安全性や機能性を考慮し、高齢者や障がい者に配慮する ●仮設構造物等には、できる限り県産材を使用 ●会場全体を本県の森づくりの取組や企業、森林ボランティア団体等の活動状況の発表の場とし、参加者へアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ●健全な生態系の維持を前提に、開催理念を具現化し、自然環境に負荷を与えないよう配慮 ●構造物は既存のものを最大限に活用し、新たな設置は最低限とし、原則県産材を使用 ●全ての参加者が安全・快適に参加できるよう配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境に負荷を与えないよう、極力原地形を有効に利用し、経費節減を図ることを基本とする ●周辺の景観との調和を図るとともに、安全性や機能性を考慮し、高齢者や障がい者に配慮する ●できる限り県産材を使用 ●白山の眺望が生かされるよう配慮 ●会場全体を本県の森林づくりの取組や森林ボランティア団体等の活動状況の発表の場とし、参加者へアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催理念や健全な生態系の維持を考慮し自然環境に負荷を与えないよう、極力原地形を有効に利用。やむを得ず部分的に造成する場合は、開催後の利用を考え環境や周辺の景観に配慮 ●仮設物等の整備は、できる限り県産材を使用 ●安全性や機能性を考慮し、高齢者や障がい者に配慮する ●会場全体を本県の森林づくりの取組や森林ボランティア団体等の活動状況の発表の場とし、参加者へアピール

先催県「基本構想」内容比較

参考資料 1

開催年 開催県	H31 愛知県	H30 福島県	H29 富山県	H28 長野県	H27 石川県	H26 新潟県
2 会場整備	<p>各会場整備の詳細は基本計画で検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●式典会場：詳細は基本計画で検討 ●植樹会場：目指すべき森林の姿をイメージしながら必要な整備を実施 ●駐車場：会場の近隣地または近傍地を確保し、道路交通事情も考慮して選定 ●おもてなし広場：式典会場と隣接して設置。総合案内所、湯茶接待コーナー、救護所を整備。参加者に愛知県の木材利用の取組や森林づくり活動、観光や県産品等をPRするため関係団体の協力により運営 ●荒天会場：荒天で行事実施が困難である場合、荒天プログラムに変更して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●会場レイアウトや構築物等は、開催理念等にふさわしいものとし、詳細は基本計画で検討 ●荒天により、式典会場での行事が困難となった場合、近隣に確保できる屋内施設を使用し対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●式典会場：既存施設を最大限活用。会場に設置する仮設構造物には、県産材を使用。詳細は基本計画で検討 ●植樹会場：現況の植生保全に配慮し、将来の森林をイメージしながら必要な整備を実施 ●駐車場：会場の近隣に確保 ●交流広場：サービススペースを設け、総合案内所、湯茶接待コーナー、救護所を整備。参加者に県民参加の森づくり活動や観光、県産品等をPRするため関係団体の協力により運営 ●荒天会場：荒天で行事の実施が困難である場合、荒天プログラムに変更して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●式典会場：屋内施設の特徴を最大限活用。長野県らしさを表現できる会場づくりを実施。仮設構造物には、県産材を使用。 ●植樹会場：会場に設置する構造物は、原則県産材を使用。安全性、経済性及び景観との調和に配慮。将来の森林利用の方針に従い、必要な整備を実施 ●駐車場：既存施設を利用。必要に応じ、会場の近隣で確保。 ●サービス広場：式典会場に隣接して設置。総合案内所、湯茶接待コーナー、救護所を整備。参加者に長野県の森林・林業の取組に併せて、観光や県産品などをPRするため関係団体の協力により運営 ●荒天会場：荒天で行事の実施が困難である場合、荒天プログラムに変更して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●式典会場：既存施設を最大限活用。会場に設置する仮設構造物には、県産材を使用。詳細は基本計画で検討 ●植樹会場：将来の森林をイメージしながら必要な整備を実施。 ●駐車場：会場の近隣地または近傍地を一時的に確保し、道路交通事情も考慮して選定。 ●サービス広場：式典会場と隣接して設置。総合案内所、湯茶接待コーナー、救護所を整備。参加者に石川県の森林づくり活動や観光、県産品等をPRするため関係団体の協力により運営 ●荒天会場：荒天で行事の実施が困難である場合、こまつドームを会場とし荒天プログラムに変更して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●式典会場：会場に設置する仮設構造物には、県産材を使用。安全性と経済性及び景観の調和に配慮 ●植樹会場：会場に設置する仮設構造物には、県産材を使用。安全性と経済性及び景観の調和に配慮。現況の植生の保全に配慮し、将来の森をイメージしながら整備 ●駐車場：既存施設の利用のほか、会場の近隣で一時的に確保 ●サービス広場：式典会場と隣接して設置。総合案内所、湯茶接待コーナー、救護所を整備。参加者に新潟県の森林づくり活動や観光、県産品等をPRするため関係団体の協力により運営 ●荒天会場：荒天で行事の実施が困難である場合、荒天プログラムに変更して実施
3 交通・宿泊等	<ul style="list-style-type: none"> ●式典前日、宿泊参加者は、実行委員会が指定する施設に宿泊することを原則とする ●式典当日の会場への移動は、宿泊施設から実行委員会が手配するバスで移動 ●宿泊施設の収容人員、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制、式典終了後の視察ルート等を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整える ●参加者の安全で円滑な輸送を図るため、関係者で打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置・案内により快適な輸送体制を整える ●場周辺及びアクセス道路沿線の安全を確保し、万全な警備体制を構築する ●会場へのアクセス道路沿線には、関係市町村や県民の協力の下で美化に努める ●式典終了後、視察コースを設定し観光振興にも努める 	←	←	←	←	←
第6章 記念事業等						
1 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●開催理念を広めるとともに森林づくりや木材利用の必要性を県民のみなさんに広く啓発するため、記念事業を実施 ●具体的内容は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催気運を醸成し、福島県の森林や身近な緑の大切さを県民に啓発 ●大会終了後も、開催意義を継承し、引き続き森林づくり活動や緑化活動に広く参加できるよう記念事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催機運を高めるとともに森づくり活動や林業再生の必要性について県民に広く啓発するため、記念事業や広報活動を実施し、県内全市町村で行事を開催し全県的な盛り上げを図る ●具体的内容は基本計画で検討 ●開催理念を普及するため、優良無花粉スギを活用し、各種施策を積極的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催気運を醸成し、県の森林や身近な緑、林業・木材産業と県産材利用の大切さを県民に啓発する ●大会終了後も、開催意義を継承し、引き続き森林づくり活動などに参加出来るよう実施 ●具体的な内容は基本計画で策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催気運を高めるとともに森林づくりや緑化活動、国産材利用や木づかい運動の必要性などを県民に広く啓発するため、記念事業や広報活動を実施し、全県的な盛り上げを図る ●具体的内容は基本計画で検討 ●開催理念を広めるとともに、循環型社会の形成を図るため県民に広く啓発するため、各種施策を積極的に推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催機運を高めるとともに森林づくりや緑化活動の必要性などを県民に広く啓発するため、記念事業を実施 ●具体的内容は基本計画で検討

先催県「基本構想」内容比較

参考資料 1

開催年 開催県	H31 愛知県	H30 福島県	H29 富山県	H28 長野県	H27 石川県	H26 新潟県
2 記念事業	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や緑化イベント等 ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や緑化イベント等 ●県民参加運動(苗木のスクールステイ、森林ボランティアや緑の少年団活動支援) ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等 ●具体的内容は基本計画で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や木工工作イベント等 ●森づくりと海づくりの連携イベント ●シンポジウムの開催 ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や地域緑化イベント、森林・木工教室等 ●県民参加運動(苗木のホームステイ・スクールステイ) ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や地域緑化イベント、木工イベント ●シンポジウム等の開催 ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレ植樹祭や地域緑化イベント等 ●記念誌や記録映像の作成、記念切手の発行等
3 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ●全国植樹祭の併催行事である林業後継者大会の開催 ●全国植樹祭の関連行事としてふさわしい行事を実施 	←	<ul style="list-style-type: none"> ●林業後継者大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●林業後継者大会 ●県植樹祭、各市町村・地区植育樹祭 ●「信州 山の日」関連行事 ●県、地区のみどりの少年団交流集会 ●森林フォーラム、森林・林業関係シンポジウム ●上下流の交流事業(H27岐阜県開催 全国育樹祭との連携など) ●長野県北部の地震による被災地の環境緑化支援事業 ●その他、森林・林業に関する行事など 	<ul style="list-style-type: none"> ●林業後継者大会の開催(全国有数の木地加工技術を誇る山中漆器の産地である加賀市山中地区で開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ●林業後継者大会や緑の百年物語フェスティバル等、植樹祭の目的と関わりが深く、互いに連携していく必要がある事業の実施
4 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞、ラジオ、テレビ等の媒体の活用 ●大会テーマ、大会ポスター原画、大会シンボルマークの活用 ●広報誌の発行、専用HPの開設等 	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞、ラジオ、テレビ等の媒体の活用 ●専用HPの開設等 	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞、ラジオ、テレビ等の媒体の活用 ●大会ポスター原画、大会シンボルマークの活用 ●広報誌の発行、専用HPの開設等 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌の発行 ●専用HPの開設等 ●大会テーマ、シンボルマーク及び大会ポスター原画を公募し県内外へ広報 	←	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞、ラジオ、テレビ等の媒体の活用 ●広報誌の発行、専用HPの開設等 ●大会ポスター原画の公募のほか、新潟県の既存キャラクターを活用したシンボルマークを作成
5 その他	←		←		<ul style="list-style-type: none"> ●信州の魅力の発信 ●式典前後の視察ルートを複数設定 ●森林・林業の取り組みと「文化や食」、「サービス広場」の充実を図り、魅力を幅広く発信 	←

第7章 運営方針等

1 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●おもてなしの心でお迎えし、開催意義や理念を伝える場とする ●市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体など各種団体の意向を踏まえ連携を図り運営 	<ul style="list-style-type: none"> ●県民主体・県民参加による全国植樹祭を実現 ●福島県らしいおもてなしでお迎えし、開催意義や理念を招待者へ発信する場とする ●市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体など各種団体の意向を踏まえ連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●おもてなしの心で歓迎し、開催意義や理念を伝える場とする ●市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体など各種団体の意向を踏まえ連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●広大な長野県全域をステージとした県民主体・県民参加の広域開催型の植樹祭の実現 ●長野県らしいおもてなしで迎え、開催意義や理念を全国に発信する場とする ●市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体など各種団体の意向を踏まえ連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●おもてなしの心で歓迎し、開催意義や理念を伝える場とする ●市町村、関係団体、NPO法人及びボランティア団体など各種団体の意向を踏まえ連携を図る 	←
2 実施組織	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 ・実施本部 	←	←	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 ・庁内連絡会議 ・実行本部 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 ・庁内連絡会議 ・実施本部 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 ・基本構想検討会 ・庁内連絡会議 ・実施本部
3 開催準備スケジュール	概要を記載	概要を記載	←		←	←
参考資料	名簿	準備委員会委員	準備委員会委員、同左幹事会	←		基本構想検討委員会
	その他	←		←		基本構想検討委員会
	会場位置図	←		←		記載